

津波防災に関するワーキングにおける検討事項の整理(案)

津波から身を守るために、津波被害の最小化に主眼を置き、津波から迅速かつ確実な避難を実現するための体制整備やルールづくりを目指す。

【検討事項1】 情報と避難行動の関係

- 発災時に避難行動を促すための情報のあり方(津波警報等の改善、避難指示等の発令について)
- 自然現象の不確実性や現在の予測技術の精度を踏まえたリスクコミュニケーション
- 避難に有効に活用されるためのハザードマップのあり方(ハザードマップで伝えるべき事項や津波警報との融合)
- 津波でんでんこと家族等の安否確認のあり方

【検討事項2】 情報伝達手段とそのあり方

- 情報の発信者から受け手までの一連の情報伝達のあり方
- 発災時の状況(停電の発生等)を踏まえた確実な情報の伝達手段
- 対象別(住民、車両、船舶、海岸利用者(海水浴客)等)の情報伝達手段のあり方

【検討事項3】 避難支援者の行動のあり方

- 津波の特徴を踏まえた避難支援者の行動ルールの策定や災害時要援護者の避難支援のあり方

【検討事項4】 自動車で安全かつ確実に避難できる方策

- 自動車避難をせざるを得ないケースの整理(近くに避難先がないなどの地域性、災害時要援護者の存在、走行中の車両の扱いなど)
- 安全・確実な自動車避難のために必要な対策
- 各地域の自動車避難の検討に資するためのポイント・留意点の整理
- 地域の状況を考慮し、地域で検討する場の整備

【検討事項5】 津波からできるだけ短時間で円滑に避難ができる方策

- 短時間で避難を可能にするための備え
- 地域性(急傾斜地や平野部、都市部や地方集落)を考慮した防災対策のあり方
- 地域の状況を考慮し、地域で検討する場の整備

防災意識の向上